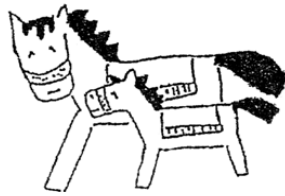


♪
お馬のかあさん
やさしいかあさん
子馬をみながら
ぽっくりぽっくり
あるく

おうまのおやこ

子育ても
あせらず待ちましょ
ポックリ、ポックリと

27年 3月 NO. 244



〒 760-0044 香川県高松市御坊町2-2
高松保育園内地域子育て支援センター
TEL:087-821-9347 FAX:087-851-0857
<http://www4.ocn.ne.jp/~kouma/>

(厚生労働省・高松市委託事業)

～どなたでも～		3月の主な活動	～お気軽にどうぞ～
3月 7日	土	体験保育 10:00～12:00	同じ年齢のクラスに入って 一緒にあそびましょう。
3月 13日	金	おはなしの会 10:00～11:30	「春が来た」をテーマにお花や動物の大型 絵本や歌などあります。どなたでもどうぞ。
3月 14日	土	体験保育 10:00～12:00	出産予定の方も子育て体験に おいで下さい。
3月 26日	木	香川みすゞさんの会 14:00～16:00	2月予定を3月に変更し、中村正博氏に 「障がい者雇用について」話していただきます。
3月 27日	金	健康・育児相談 11:00～12:00	園医師（小児科）にゆっくり 相談できます。（予約要）
3月 28日	土	あなたもマジシャン！ 14:00～16:00	手品をみんなで楽しみましょう。

<p>・火～金の13時～16時までは、園内開放しています ので、親子でご来園下さい。 (但し、月・日曜・祭日は休み)</p>	<p>育児相談（月～土）9:00～18:00 しつけや子育てについての悩み、保育園生活 入園・見学についての相談もどうぞ。</p>
--	--



大きな手籠、手籠。
どの子も、どの子も、楽しげに。

せつく
節句は来ても、春浅い、
よもぎはほんの、芽ばかりで、
摘めばしおれてしまうのに、
摘めばしおれてしまうのに。

田舎の人が摘んだのを、
町へと売りに行くために、
野にある蓬はみいんな、
けれど、どの子も知りやしない、
どの子も、どの子も、町の子は、
よもぎっ

手籠、手籠、
大きな手籠。
広い野へ出て、この籠に、
よもぎっ

大きな手籠
てかご

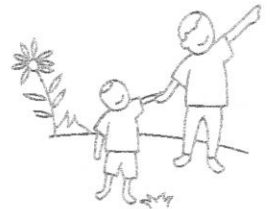


全国の夜間保育園の現状（前編）

当園の夜間保育園（高松第二保育園・はな組）は、平成元年、全国で28番目に認可され、今年で27周年になります。

現在は、乳児から就学前まで34人。はな組というクラス名です。保育時間は、午前11時から夜10時までで（その後深夜2時まで延長保育あり）、夕食前までは昼間保育園（高松保育園）のこどもといっしょに年齢別のクラスで過ごしています。まるで兄弟のようにお兄ちゃんが年下の子どもにご飯を食べさせてあげたり、手をつないだり、よくお世話をしてくれる仲良しの大家族です。

今月は、全国の夜間保育園のなりたちや現状もふまえて、夜間保育園への理解を深めていただきたく、2月と3月と2回に分けてご紹介します。



～ベビーホテルと夜間保育園の思い出～

どうもと あきこ
堂本 暁子（前 千葉県知事）

・投書をきっかけに始めたベビーホテル取材

ベビーホテルの取材を始めたのは、23歳の主婦から寄せられた「最近、ベビーホテルがブームだそうです、「レポートTBS6」でレポートしてください」という1枚の投書がきっかけでした。

軽い気持ちで訪れた東京渋谷区のベビーホテルはマンションの5階。部屋はきれいでも、子どもたちがおどおどしていて、何か不自然なのです。生まれて間もない赤ちゃんが力なく泣き続けているので、「何時からこのホテルにいるのですか」と聞くと「この子は生まれた病院から直接きたんですよ」と着飾った女性経営者は答えます。“ここはなにか怪しい。子どもを預かるべきところじゃない”というのが私の直感でした。今から33年前の1980（昭和55年）3月のことです。全国各地で取材したベビーホテルは、元ダンスホールだったり、アパートの1室だったり、千差万別でしたが、劣悪な実態は共通していました。しかも対象が、みずから訴える術をもたない乳幼児であるため、食事の内容、虐待の実態などについて親でさえ気がつかず、行政も無関心でした。

ベビーホテルが「ご旅行の折になど、いつでも気軽にお子さんをお預けください」といった調子で呼びかけていたので、厚生省（当時）は遊びやお稽古事の折などに預けるところ、と受けとめていたようです。

そこで私たちは実態調査を行いました。結果は厚生省の予測に反して、お母さんたちがベビーホテルを利用する目的は90.2%が仕事のためでした。子どもを預かる時間を調べてみると、昼型、夜型、泊まり型、長期滞在型などがあり、ベビーホテルの本質は夜間保育にありました。

ベビーホテルが乱立した1975（昭和50）年ごろは女性の労働時間が長期化、多様化した時期で保育の需要が急増しましたが、認可保育所は数のうえでも保育時間の柔軟性からいってもその状況に対応しておらず、母親たちは入所を希望しても半数の人が入所できませんでした。そこで法的規制がない、許可も認可もいないベビーホテルが乱立し、トラック運転手、キャバレー経営者、サラ金業者・・・と保育士資格のない人たちが園長先生に転職・変身したのです。ベビーホテルの利用者の三分の一は夜間の利用者で、理由は全員「仕事のため」でした。職業は夜間の場合は夜間の飲食店などの仕事が63.1%、会社・公務員が3.6%で、昼間の場合は母子家庭が5.2%だったのに対し、夜は38.1%と圧倒的に多く、ほとんどが自分で働かなければならない母親たちでした。

ベビーホテルでも20時頃になると子どもたちにふとんを敷いて寝かせるのですが、4歳になるかならないかの幼い女の子は、どんなに遅くなっても、お母さんがお迎えに来るまで、袋を握りしめ、眠さに耐え、ピアノによりかかって待っていました。



・1981年に夜間保育園スタート

こうした状況の中で、夜間保育に反対してきた厚生省が1981（昭和56）年に午後2時から夜10時までの夜間保育を認めたのは画期的なことでした。そこで、ただちに夜間保育を始めたのは8つの保育園で、それぞれの園長さんの勇気に感動しました。

20年経った2001（平成13）年は45か所、そして2012年は78か所と、決して多くはありません。なのにベビーホテルは1566か所。保育をめぐる環境は著しく変容し、国の保育政策も次々と規制が緩和され、こども園が登場するなど激変しています。そうした中で夜間保育園が子ども心身の発達を守るために日々努力しておられることに心打たれます。

私が、30年前に取材した乳児から4～5歳の子どもたちは、今では30代半ばになり、それぞれ社会のなかで一生懸命暮らしているに違いありません。一人ひとりを訪ね歩き、大人になった姿を見たい、会いたい、と心底思いますが、叶わない願いです。

「夜間保育と子どもたち～30年のあゆみ」（北大路書房）より

高松第二保育園（夜間保育園）の3年間を振り返って

創立25周年を迎える高松第二保育園は、夜間保育園です。

長時間保育のこどもたちは、一日の大半を過ごしているから“大家族の第二のわが家”であってほしいと、職員一同が常に心がけています。

初めて夜間保育園専任になった年、子どもたち一人ひとりの居場所づくりとして少人数のグループをつくり、そこに職員が入り、食事することにしました。ある日の夕食時、「家だったらお父さんやな」と言うと、同テーブルの女の子が「じゃあ私はお姉ちゃん」と言い、小さい子のお世話をし始め、あっという間に他のグループにも広がりました。時には褒め、時には叱り、まさに昭和のちゃぶ台を囲む食事風景でした。

会話をすることで少しずつ信頼関係ができ、子ども達も親しみを持って接してくれるようになりました。夕方出勤し、園庭を通ると笑顔で飛んできては「先生、今日は何するん？」と聞いてくれる子どもたち・・・嬉しい反面、改めて魅力のある保育内容を見直す必要があると感じました。

園外保育などの行事は子ども達が一番楽しみにしているものです。

春の園外保育、白鳥が橋の下で卵を温めていました。「先生、白鳥が私のあげたパン食べてくれたあ！」「お父さんが怖い顔をしてるんは、子どもを守りよんや！」など豆博士たちは大発見の感動を目を輝かせて話してくれました。

ひとつの体験から多くのことを学んだり、また、保育者や友だちと共感することで自己肯定感が育っていくのがよくわかりました。

入園当初の子どもたちに限らず、保護者と離れる時間が長く、しかも夜間の子どもたちでもあり、ともすれば欲求不満になりがちな子どもたちの気持ちを充分にくみ取り、耳を傾け、子ども自身が自発的に、なおかつ意欲的に楽しみながら関われる環境作りを行うことが何より大切だと思っています。それらを家庭に発信し、共に子育てをしていきたいと感じています。

先輩の語り継がれてこられたことを改めて自覚しつつある毎日です。

高松第二保育園 保育士 藤本 真悟

(平成26年2月「夜間保育」機関誌より)

